

30年間にわたる熱意あふれるパラリンピックへのサポート



平昌パラリンピックはオットーボックにとって記念の大会になります

3月9日～18日に韓国の平昌で開催されるパラリンピック冬季大会が近づいてきました。42カ国から670名の選手が参加し、史上最大の規模で大会が開催されます。アルペンスキー、バイアスロン、クロスカントリースキー、パラアイスホッケー、スノーボード、車いすカーリングの6種類の競技、80種目でメダルが争われます。

オットーボックは、選手が使用する機器が万全な状態で競技に臨めるように、義肢、装具、車いす等の公式修理サービスプロバイダーとしてパラリンピックに参加します。選手村内に300平方メートルの修理サービスセンターが設置されます。選手からの修理依頼に応えるために、溶接のスペシャリストを含む23名の技術者が派遣され、日本からも2名の技術者が参加します。

車いす、チェアスキー、スキー・スノーボード用の義足を始めとした選手が使用する機器の修理だけでなく、競技会場への移動に支障が無いように、選手が日常で使用している機器の修理にも対応しています。

平昌組織委員会のマーケティングダイレクターであるEOM Chanwang氏はこのように語っています。「オットーボックが平昌パラリンピックをサポートしてくれることに感謝しています。オットーボックの修理サービスがあることで、選手が最高の状態で競技をすることができます。組織委員会は選手が競技に集中できる環境を提供することを心掛けていますので、オットーボックのようなパートナーは大変重要です。選手が必要な時に機器を万全な状態にできる修理サービスを始めとして、選手が必要とするあらゆることを提供したいと考えています。」

オットーボックのチーフマーケティングオフィサーである Christin Gunkel は「オットーボックが公式のパートナーとしてパラリンピックに参加できることを大変嬉しく思っています。平昌大会は私たちにとって特別な意味があります。オットーボックがパラリンピックで最初に修理サービスを提供したのは韓国でした。それは今日まで続いているパラリンピックでの修理サービスの始まりでもありました。また、修理サービスの提供というパートナーシップを開始してから 30 年になる記念すべき大会でもあります。」と語っています。

2018 平昌パラリンピックはその後の東京夏季大会、北京冬季大会とアジアで開催される 3 大会の始まりの大会ともなります。

オットーボックにとってこの大会は 15 回目となる修理サービスプロバイダーの役割とともに 30 年間のパートナーシップを祝う大会となります。

1988 年のソウル大会において、オットーボック・オーストラリアの 4 人の義肢装具士が小さなワークショップで修理サービスを提供しました。これが 30 年も続くコミットメントの礎となり、今日では「パッションフォーパラリンピック」というも理念とともに広く知られるサービスとなっています。オットーボックは修理サービスが開始された韓国に、公式修理サービスプロバイダーとして再び戻ってきました。

平昌パラリンピック修理サービス概要

- 義肢装具士、車いす技術者、サポートスタッフ、溶接のスペシャリスト 4 名を含む 23 名を派遣、日本からも 2 名の技術者が参加
- 10ヶ国語での対応が可能
- 選手村内に修理サービスセンター(300 平方メートル)を設置
 - ✓ 2018 年 3 月 2 日(金)～21 日(水) 午前 8:00 から午後 9:00 までオープン
 - ✓ 2 交代制、センターには 2 名の義肢装具士、1 名の車いす技術者、1 名の溶接のスペシャリストが常駐
 - ✓ 24 時間の緊急サービスにも対応
- アルペン、ノルディック、スレッジホッケー会場に修理サービスブースを設営
 - ✓ チョンソン(旌善)アルペンセンター (Jeongseon Alpine Centre)
 - ✓ アルペンシア バイアスロンセンター (Alpensia Biathlon Centre)
 - ✓ カンヌン(江陵)ホッケーセンター (Gangneung Hockey Centre)
- 19 日間の修理サービス期間中に 3,246 時間、260 件の修理を想定